

# Cisco UCS Director リリース 6.5 リリース ノート

初版 : 2017 年 07 月 11 日

## Cisco UCS Director

Cisco UCS Director は、サポート対象のコンピューティング、ネットワーク、ストレージ、仮想化プラットフォーム、および Cisco Unified Computing System (Cisco UCS) と Cisco Nexus プラットフォームに基づいた業界をリードするコンバージド インフラストラクチャ ソリューションに対し、統一され安全性に優れた管理を提供します。Cisco UCS Director は、Cisco UCS を通じてコンピューティング層およびネットワーク層の統合を拡張し、コンピューティング、ネットワーク、ストレージおよび仮想化に対する包括的な可視性と管理機能をデータセンター管理者に提供します。詳細については、[Cisco.com](http://Cisco.com) で [Cisco UCS Director](#) を参照してください。

## マニュアルの変更履歴

リリース	日付	説明
6.5	2017年7月11日	Cisco UCS Director リリース 6.5 の公開済みリリース ノート。

## システム要件

[Cisco UCS Director のインストールおよびアップグレードガイド](#)に、このリリースの以下に関するシステム要件が記載されています。

- VMware vSphere
- Microsoft Hyper-V

### サポートするブラウザバージョン

Cisco UCS Director は、次のブラウザをサポートしています。

HTML-5 の場合

- Internet Explorer 8 以降

- Firefox 12 以降 (PC および Apple MAC)
- Safari 6 以降
- Google Chrome 18 以降
- Opera 12 以降 (PC および Apple MAC)

クラシック表示の場合：すべてのブラウザで Adobe Flash Player 11 プラグイン以降が必要です

- Internet Explorer 8 以降
- Google Chrome 4.1 以降
- Firefox 3.5 以降
- Safari 4.0 以降 (Apple Mac の場合)

## Single-Node 設定のシステムの最小要件

最小システム要件は、管理する VM の数によって異なります。Cisco UCS Director VM は、最小 I/O 速度 25 Mbps のローカル データストア、または最小 I/O 速度 50 Mbps の外部データストアに導入することを推奨します。



(注)

- 最適なパフォーマンスを実現するために、追加的に CPU リソースとメモリ リソースを予約します。次の表に示す最小システム要件に加え、3000 MHz 以上の CPU リソースと、4 GB 以上のメモリを予約することを推奨します。Cisco UCS Director VM の CPU 使用率が常に高い場合、vCPU をさらに追加する必要があります。
- Inframgr サービスに必要な最小メモリは、導入時に自動的に設定されます。ただし、inframgr サービス用のメモリを変更する場合は、次の場所を参照して `inframgr.env` ファイルを編集してください。

`/opt/infra/bin/`

このファイルでは、「MEMORY\_MAX」パラメータを目的の値となるように更新します。このパラメータを変更した後、変更内容を反映するためにサービスを再起動します。デフォルトメモリ設定は、「MEMORY\_MIN=128m」および「MEMORY\_MAX=6144m」です。

マルチノードセットアップのシステムの最小要件については、『[Cisco UCS Director Multi-Node Installation and Configuration Guide](#)』を参照してください。

### 最大 2,000 台の VM

最大 2,000 台の VM を管理する場合、Cisco UCS Director 環境は、少なくとも次の表のシステムの最小要件を満たす必要があります。

表 1: 最大 2,000 台の VM のシステムの最小要件

要素	サポートされる最小要件
vCPU	4
メモリ	12 GB
ハードディスク	100 GB

**最大 5,000 台の VM**

最大 5,000 台の VM を管理する場合、Cisco UCS Director 環境は、少なくとも次の表のシステムの最小要件および推奨設定を満たす必要があります。

表 2: 最大 5,000 台の VM のシステムの最小要件

要素	サポートされる最小要件
vCPU	8
メモリ	20 GB
ハードディスク	100 GB

表 3: データベースの最小設定

要素	サポートされる最小設定
thread_cache_size	100
max_connections	1000
innodb_lock_wait_timeout	100
query_cache_size	128 MB
innodb_buffer_pool_size	4096 MB
max_connect_errors	10000
connect_timeout	20
innodb_read_io_threads	64
innodb_write_io_threads	64

## Multi-Node 設定のシステムの最小要件

Multi-Node 設定のシステムの最小要件は、Cisco UCS Director でサポートが必要な VM の数によって異なります。ローカル データストアでは 25 Mbps 以上の I/O 速度、外部データストアでは 50 Mbps 以上の I/O 速度で Cisco UCS Director VM を導入することを推奨します。次の表に、サポートされる VM の数を導入サイズごとに示します。

展開サイズ	サポートされる VM の数
小規模	5,000 ~ 10,000
中規模	10,000 ~ 20,000
大規模	20,000 ~ 50,000

### 小規模な Multi-Node 設定のシステムの最小要件

小規模な Multi-Node 設定でサポートする VM 数は、5,000 から 10,000 です。この導入では次のノードが含まれるようにしてください。

- 1つのプライマリ ノード
- 2つのサービス ノード
- 1つのインベントリ データベース
- 1つのモニタリング データベース



(注) 最適なパフォーマンスを実現するために、追加的に CPU リソースとメモリ リソースを予約します。

#### プライマリ ノードおよびサービス ノードのそれぞれの最小要件

要素	サポートされる最小要件
vCPU	4
メモリ	16 GB
ハードディスク	100 GB

## インベントリ データベースの最小要件

要素	サポートされる最小要件
vCPU	4
メモリ	30 GB
ハードディスク	100 GB (SSD タイプ ストレージ)

## モニタリング データベースの最小要件

要素	サポートされる最小要件
vCPU	4
メモリ	30 GB
ハードディスク	100 GB (SSD タイプ ストレージ)

## プライマリ ノードとサービス ノードでの Cisco UCS Director サービスのメモリの最小設定

サービス	推奨設定	ファイルの場所	パラメータ
inframgr	8 GB	/opt/infra/bin/inframgr.env	MEMORY_MAX



(注) Inframgr サービスのメモリ設定を変更するには、inframgr.env ファイルの「MEMORY\_MAX」パラメータを必要な値に更新します。このパラメータを変更した後、変更内容を反映するためにサービスを再起動します。

## 中規模な Multi-Node 設定のシステムの最小要件

中規模な Multi-Node 設定でサポートする VM の数は 10,000 から 20,000 です。この導入では次のノードが含まれるようにしてください。

- 1 つのプライマリ ノード
- 3 つのサービス ノード
- 1 つのインベントリ データベース
- 1 つのモニタリング データベース



(注) 最適なパフォーマンスを実現するために、追加的に CPU リソースとメモリ リソースを予約します。

#### プライマリ ノードおよびサービス ノードのそれぞれの最小要件

要素	サポートされる最小要件
vCPU	8
メモリ	30 GB
ハードディスク	100 GB

#### インベントリ データベースの最小リソース要件

要素	サポートされる最小要件
vCPU	8
メモリ	60 GB
ハードディスク	100 GB (SSD タイプストレージ)

#### モニタリング データベースの最小リソース要件

要素	サポートされる最小要件
vCPU	8
メモリ	60 GB
ハードディスク	100 GB (SSD タイプストレージ)

#### プライマリ ノードとサービス ノードでの Cisco UCS Director サービスのメモリの最小設定

サービス	推奨設定	ファイルの場所	パラメータ
inframgr	12 GB	/opt/infra/bin/inframgr.env	MEMORY_MAX

Inframgr サービスのメモリ設定を変更するには、inframgr.env ファイルの「MEMORY\_MAX」パラメータを必要な値に更新します。このパラメータを変更した後、変更内容を反映するためにサービスを再起動します。

#### インベントリ データベースの最小設定

コンポーネント	サポートされる最小設定
thread_cache_size	2000
max_connections	2000
innodb_lock_wait_timeout	100
query_cache_size	128 MB
innodb_buffer_pool_size	43,008 MB
max_connect_errors	10,000
connect_timeout	20
innodb_read_io_threads	64
innodb_write_io_threads	64

これらの変更は、/etc/my.cnf ファイルで行います。

#### モニタリング データベースの最小設定

コンポーネント	サポートされる最小設定
thread_cache_size	2000
max_connections	2000
innodb_lock_wait_timeout	100
query_cache_size	128 MB
innodb_buffer_pool_size	43,008 MB
max_connect_errors	10,000
connect_timeout	20
innodb_read_io_threads	64
innodb_write_io_threads	64

これらの変更は、/etc/my.cnf ファイルで行います。

## 大規模な Multi-Node 設定のシステムの最小要件

大規模な Multi-Node 設定でサポートする VM 数は、20,000 から 50,000 です。この導入では次のノードが含まれるようにしてください。

- 1つのプライマリ ノード
- 6つのサービス ノード
- 1つのインベントリ データベース
- 1つのモニタリング データベース



(注) 最適なパフォーマンスを実現するために、追加的に CPU リソースとメモリ リソースを予約します。

### プライマリ ノードおよびサービス ノードのそれぞれの最小リソース要件

要素	サポートされる最小要件
vCPU	8
メモリ	60 GB
ハードディスク	100 GB

### インベントリ データベースの最小リソース要件

要素	サポートされる最小要件
vCPU	8
メモリ	120 GB
ハードディスク	200 GB (SSD タイプストレージ)



## モニタリング データベースの最小リソース要件

要素	サポートされる最小要件
vCPU	8
メモリ	120 GB
ハード ディスク	600 GB (SSD タイプ ストレージ)

## プライマリ ノードとサービス ノードでの Cisco UCS Director サービスのメモリの最小設定

サービス	推奨設定	ファイルの場所	パラメータ
inframgr	24 GB	/opt/infra/bin/inframgr.env	MEMORY_MAX

Inframgr サービスのメモリ設定を変更するには、inframgr.env ファイルの「MEMORY\_MAX」パラメータを必要な値に更新します。このパラメータを変更した後、変更内容を反映するためにサービスを再起動します。

## インベントリ データベースの最小設定

コンポーネント	サポートされる最小設定
thread_cache_size	4000
max_connections	4000
innodb_lock_wait_timeout	100
query_cache_size	128 MB
innodb_buffer_pool_size	86,016 MB
max_connect_errors	10,000
connect_timeout	20
innodb_read_io_threads	64
innodb_write_io_threads	64

これらの変更は、/etc/my.cnf ファイルで行います。

## モニタリング データベースの最小設定

コンポーネント	サポートされる最小設定
thread_cache_size	4000
max_connections	4000
innodb_lock_wait_timeout	100
query_cache_size	128 MB
innodb_buffer_pool_size	86,016 MB
max_connect_errors	10,000
connect_timeout	20
innodb_read_io_threads	64
innodb_write_io_threads	64

これらの変更は、`/etc/my.cnf` ファイルで行います。

## インストールおよびアップグレードに関する注意事項

Cisco UCS Director は、VMware には OVF 形式、Microsoft Hyper-V には VHD 形式で提供される標準の仮想マシンを使用します。VMware vSphere または vCenter、あるいは Microsoft Hyper-V Manager でホストできます。インストール手順については、適切な『[Cisco UCS Director installation guide](#)』を参照してください。

Cisco UCS Director リリース 6.5 は、仮想マシン (VM) の 2 つのディスクにインストールされます。プライマリディスク (ハードディスク 1) は、オペレーティングシステムと Cisco UCS Director アプリケーションをホストします。セカンダリディスク (ハードディスク 2) は、Cisco UCS Director データベースをホストします。これら両方のディスクのシステム要件については、『[Cisco UCS Director installation guide](#)』または『[Cisco UCS Director Upgrade Guide](#)』を参照してください。



- (注) Cisco UCS Director OVF および VHD の ZIP ファイルは、CentOS 6.x で zip 3.x を使用して作成されます。Linux システムの場合は、unzip 6.x 以降または最新バージョンの 7-Zip アーカイブツールを使用して zip ファイルを抽出できます。Windows システムの場合、Windows 10 および Windows Server 2012 では Windows Explorer のネイティブの Extract All、または 7-Zip や WinRAR などの最新バージョンのアーカイブツールを使用して zip ファイルを抽出できます。



(注) アップグレードパッチを適用して、そのインストールを完了した後、ShellAdmin の [サービスの開始 (Start Services) ] オプションを選択し、Cisco UCS Director サービスを開始/再開して、パッチ プロセスを完了します。サービスが開始し、Cisco UCS Director が使用可能になり、ログイン画面が表示され、管理ユーザが UCSD にログインできるまで、パッチ プロセスは完了または成功したとはいえません。

追加パッチの適用、データベースのバックアップ、バックアップからのデータベース復元など、すべての Cisco UCS Director サービスは他の ShellAdmin プロシージャを実行する前に停止する必要があります。

## Cisco UCS Director リリース 6.5 へのサポートされているアップグレードパス

Cisco UCS Director リリース 6.5 へのサポートされているアップグレードパスは、以下のとおりです。

現在のリリースからリリース 6.5 にアップグレードするための詳細な手順については、『[Cisco UCS Director Upgrade Guide](#)』を参照してください。

### リリース 6.0(0.0) プラットフォームからのアップグレードパス

- リリース 6.0(1.2) からリリース 6.5(0.0) へ
- リリース 6.0(1.1) からリリース 6.5(0.0) へ
- リリース 6.0(1.0) からリリース 6.5(0.0) へ
- リリース 6.0(0.1) からリリース 6.5(0.0) へ
- リリース 6.0(0.0) からリリース 6.5(0.0) へ

### リリース 5.5(x.x) プラットフォームからのアップグレードパス

リリース 5.5(x.x) からリリース 6.5(0.0) への直接アップグレードはサポートされていません。最初に 6.0(x.x) リリースにアップグレードする必要があります。

- リリース 5.5(0.1) からリリース 6.0(x.x) へ、次にリリース 6.5(0.0) へ
- リリース 5.5(0.0) からリリース 6.0(x.x) へ、次にリリース 6.5(0.0) へ

### 以前のリリースからのアップグレードパス

リリース 6.0(x.x) より前のバージョンからリリース 6.5(0.0) への直接アップグレードはサポートされていません。次のいずれかのアップグレードパスを使用する必要があります。

- リリース 5.4.x バージョンを使用しているユーザは、まずリリース 5.5 またはリリース 5.5(0.1) にアップグレードしてから、リリース 6.0(x.x) にアップグレードし、その後リリース 6.5(0.0) にアップグレードします。

- 5.4バージョンより前のバージョンを使用しているユーザは、まず5.4バージョンに移行してから、リリース 5.5 またはリリース 5.5(0.1) にアップグレードし、その後リリース 6.0(x.x) にアップグレードして、リリース 6.5(0.0) にアップグレードします。

### マルチノード設定のアップグレード

基本 OVF が Cisco UCS Director 5.4 の場合、プライマリ ノードとサービス ノードをバージョン 6.5 にアップグレードする前に、/opt/certs に mysql という名前のフォルダを作成する必要があります。プライマリ ノードとサービス ノードのアップグレード後に、これらのノードが再起動され、その後にサービスが開始されます。

アップグレード後、すべてのノードの mysql db パスワードを次の順序でリセットすることでセキュリティを強化できます。

- インベントリ ノード
- モニタリング ノード
- プライマリ ノード
- サービス ノード

リリース 6.5 にアップグレードした後、サービスのステータスがモニタリングおよびインベントリのデータベース ノードに表示されない場合があります。この問題を解決するには、『*Cisco UCS Director Troubleshooting guide*』を参照してください。

## 新機能および変更された機能

ここでは、このリリースの重要な新機能および変更された機能の概要について説明します。ここでは、このリリースに含まれる機能拡張のすべては網羅しません。



(注) このリリースの Cisco UCS Director でサポートされる物理および仮想デバイスならびにソフトウェアについては、[このリリースの互換性マトリクス](#)を参照してください。

## リリース 6.5 の新機能および変更された機能

### 新規管理ポータル

このリリースでは、これまで使用可能だったユーザインターフェイスに置き換わる新規および改良された HTML-5 ベースの管理ポータルを導入しています。デフォルトでは、Cisco UCS Director にログインすると、新しいユーザインターフェイスが表示されます。以前のバージョンのインターフェイス（現在はクラシック表示と呼ばれています）は引き続き使用できますが、後続のリリースでは削除されます。以下は、新しいインターフェイスの主要な機能の一部です。

- ナビゲーションメニューの変更：以前のリリースでは、メインメニューバーを使用してページにアクセスできました。メインメニューバーは表示されなくなり、サイドバーとして利用できるようになりました。マウスを使用してカーソルをサイドナビゲーションバーのオプションの上に合わせ、メニューオプションのいずれかをクリックします。
- ユーザーインターフェイスラベルの削除：ユーザーインターフェイスには、追加、編集、削除、エクスポート、フィルタなどの操作のラベルが表示されなくなりました。これらのアクションはアイコンのみで表示されます。マウスを使用してカーソルをアイコンの上に合わせると、そのアイコンを使用して実行できるアクションがラベルに表示されます。
- ダッシュボードを使用した詳細レポートへのアクセス：ダッシュボードを有効にしている場合は、このダッシュボードが Cisco UCS Director にログインしたときに表示される最初のページとなります。通常はこのダッシュボードを使用して重要なレポートや頻繁にアクセスするレポートのウィジェットを追加します。ダッシュボードに表示されたレポートをクリックすると、より詳細な情報が表示されるユーザーインターフェイスのページにすぐにアクセスできるようになりました。
- レポート機能の強化：個々の円グラフと棒グラフレポートをダッシュボードに追加したり、これらのレポートを PDF、CSV、または KLS 形式でエクスポートしたりできます。また、ダッシュボードからレポートを検索できます。
- 状況依存オンラインヘルプ：ユーザーインターフェイスで [ヘルプ (Help) ] アイコンをクリックすると、オンラインヘルプシステムによって、現在アクセスしている画面に情報が表示されます。
- 管理用にカスタマイズされたアイコン：Cisco UCS Director は、カタログアイコン、アクション関連のアイコン、およびステータス関連のアイコンのカスタマイズと管理をサポートします。システムに設定された各アイコンには、デフォルトで利用可能ないくつかのイメージが含まれています。カタログ、アクション、またはステータスのいずれかに表示されるアイコンを変更できます。新しいイメージをアップロードしてアイコンとして設定することができます。または、システムが提供する一連のアイコンから別のアイコンを選択することもできます。
- HTML-5 の ReportMeta データ RestAPI URL がエンコードされています：この URL はそのまま使用できます。この URL を復号化する場合は、オンラインで入手可能な任意の URL デコーダを使用できます。
- 以前のバージョンからリリース 6.5 にアップグレードした後、管理者は承認のために承認 E メールテンプレートを HTML-5 URL で更新する必要があります。この変更が行われない場合、テンプレートはクラシック表示ページにリダイレクトされます。E メールテンプレートの変更は、次のようになっている必要があります。

```
out.println("<a href='"+ "https" + "://" +  
request.getDataObject().getSettings().getCuiIpAddress() +  
"/app/ux/index.html?filter_entryId_" + request.getDataObject().getEntryId()+">link</a>");
```

**重要**

HTML-5 ユーザ インターフェイスは、テーマまたはトポロジ表示をサポートしていません。HTML-5 ユーザ インターフェイスでテーマを選択すると、クラシック表示のユーザ インターフェイスにも適用されます。

『Cisco UCS Director Administration Guide』に記載されています。

**ベア メタル サーバのプロビジョニング ポリシーの設定を変更**

このリリースでは、次のような変更が行われました。

- ポリシーの範囲をサーバまたはサーバ プールを含むように設定できます。
- サーバの設定にポリシーを使用している間は、ユーザが特定のサーバを選択できるようになることができます。
- サーバに 1 つ以上の Windows OS イメージを選択できるようになりました。
- サーバの IP アドレスの割り当てに静的 IP プール ポリシーを使用できます。
- ベア メタル サーバのサーバ ホスト名の検証にホスト名検証ポリシーを使用できます。

さらに、ベア メタル サーバのプロビジョニング ポリシーを作成した後、そのポリシーをユーザ インターフェイスから検証し、ポリシーに問題があるかどうかを判断できます。

『Cisco UCS Director Administration Guide』に記載されています。

**VM のスタック ビュー レポートを変更**

このリリースで、VM のスタック ビュー レポートが次のように変更されています。

- レポートに複数のデバイスがある場合は、ドロップダウンリストを使用して特定のデバイスを選択できます。
- レポートのデバイスの追加詳細情報を表示するように選択できます。

『Cisco UCS Director Administration Guide』に記載されています。

**ユーザ管理の強化**

このリリースには、ユーザの管理に関する次の変更が含まれています。

- [すべてのユーザのログイン履歴 (All Users Login History) ] オプションが導入され、そのオプションを使用して、システム内のすべてのユーザのログイン関連情報を確認できます。
- ユーザのためのセッション管理機能の導入：管理者は、システム内のユーザの同時セッションの最大数を設定できます。
- ユーザ ロールの追加時に、ロールの可用性を有効または無効にできます。

『Cisco UCS Director Administration Guide』に記載されています。

### 非ルート ディスク上のデータベースのサポート

Cisco UCS Director リリース 6.5 をインストールまたはそのバージョンにアップグレードする場合、データベースは仮想マシン (VM) のセカンダリ非ルート ディスクにインストールされるようになりました。このセカンダリ ディスクは、Cisco UCS Director リリース 6.5 をインストールすると自動的に作成されます。アップグレードする場合は、まず『*Cisco UCS Director Upgrade Guide*』に記載されている要件を満たすセカンダリ ディスクを作成する必要があります。

『*Cisco UCS Director Installation on VMware vSphere and Microsoft Hyper-V*』および『*Cisco UCS Director Upgrade Guide*』に記載されています。

### APIC 機能プロファイルとサービス グラフによる ASA/ASA v 設定

ACI によるネットワーク管理が含まれるシステムでは、APIC 機能プロファイルに NAT、スタティック ルート、および IP アドレス パラメータを設定できるようになりました。さらに、この機能プロファイルを L4 ~ L7 サービス グラフに追加できます。

『*Cisco UCS Director APIC Management Guide*』に記載されています。

### NetApp All Flash FAS (AFF) のサポート

Cisco UCS Director は、ONTAP 9.0 および 9.1 で NetApp All Flash FAS (AFF) をサポートするようになりました。さらに、次の点に注意します。

### EMC Unity のサポート

Cisco UCS Director は、サポート対象の EMC Unity ストレージアレイのオーケストレーションの自動化、管理、モニタリング、およびレポートをサポートするようになりました。

### Cisco UCS Manager サポートの強化

このリリースでは、次のサポートが Cisco UCS Manager 向けの Cisco UCS Director 用に追加されました。

- FlexPod、Vblock、VSPEX など、複数の Cisco UCS Manager アカウントをポッド用に追加できます。

『*Cisco UCS Director Management Guide for Cisco UCS Manager*』に記載されています。

### Cisco UCS Central のサーバライセンスのトラッキング

以前のリリースでは、Cisco UCS Director は、Cisco UCS Manager 経由で管理されていた場合に限り、使用可能なライセンスに対するサーバの数を追跡していました。リリース 6.5 から、Cisco UCS Director は、サーバが Cisco UCS Central 経由で管理されている場合に使用可能なライセンスも追跡します。制限を超えると警告メッセージが表示されます。ただし、猶予期間が終了するまでこれらのサーバの管理を続行することができます。

さらに、[すべての UCS ドメイン (All UCS Domains)] の下にある [検出されたサーバ (Discovered Servers)] にアクセスすることで、Cisco UCS Central アカウントから直接サーバを管理および管理解除できるようになりました。Cisco UCS Central アカウントを追加する際に、サーバ管理の下の [選択したサーバ (Selected Servers)] オプションを選択していることを確認します。

『*Cisco UCS Director Management Guide for Cisco UCS Central*』に記載されています。

### PowerShell エージェントの強化

このリリースでは、PowerShell エージェントの次のサポートが導入されています。

- 新しい Execute Native PowerShell コマンド タスク。PowerShell エージェント サーバ上で PowerShell スクリプトをローカルで実行するのに役立ちます。このタスクにより、サードパーティ コマンドレットの一部がリモートセッションで実行可能にならないという制限が克服されます。
- Execute PowerShell コマンド タスクでは、デフォルト以外のさまざまな認証メカニズムから選択するオプションが提供されるようになりました。

『*Cisco UCS Director PowerShell Agent Installation and Configuration Guide*』に記載されています。

### Cisco UCS Director のビッグデータ向け Cisco UCS Director Express の強化

Cisco UCS Director のビッグデータ向け Cisco UCS Director Express の機能拡張の内容は次のとおりです。

- ビッグ データ クラスタを展開するための CentOS 7.2 のサポート
- Cloudera および Hortonworks クラスタのための Spark サービスのサポート。
- Splunk 6.4.2、6.4.3、および 6.5 クラスタ バージョンをサポート。
- MapR クラスタのセキュリティを有効にするオプションを導入しました。
- 高度なカタログを使用してビッグ データ クラスタを作成するサービス エンド ユーザ向けのオプションを導入しました。
- Cloudera および Hortonworks クラスタのための Kafka サービスのサポート。
- IBM Big Insights 4.2 クラスタ バージョンのサポート。
- Hortonworks クラスタの高可用性サポートを有効にするオプションを導入しました。
- 柔軟なネットワーク構成で Hadoop または Splunk クラスタを作成するオプションを導入しました。
- Splunk クラスタのサービス ロール エントリ テンプレートをカスタマイズするためのオプションを導入しました。

『*Cisco UCS Director Express for Big Data Management Guide*』に記載されています。

### ベアメタル エージェントのインストールと設定の強化

このリリースでは、BMA アカウントの管理および設定向けに次の機能と機能拡張が導入されました。

- OS イメージをベアメタル エージェント アカウントにアップロードして OS イメージをプロビジョニングするオプション。



- [管理 (Administration) ]>[物理アカウント (Physical Accounts) ]を選択し、[ベアメタルエージェント (Bare Metal Agents) ]をクリックして PXE ブート リクエストを作成するオプション。
- Windows Hyper-V 2016 ベアメタル OS インストールのサポート
- vSphere/ESXi 6.5 ベアメタル OS インストールのサポート
- シングル BMA からのマルチ Windows バージョン展開のサポート：ベアメタルエージェントは、複数の Windows バージョンをサポートするために単一の WinPE を維持する、Microsoft Windows PXE ブート プロセスを採用しています。
- ベアメタルエージェント アカウントのネットワーク インターフェイスの詳細を表示するためのサポート。
- Microsoft Windows 用の PXE ブート タスクを設定するための追加フィールド。新しいフィールドには、[サーバ IP 設定タイプ (Server IP Configuration Type) ]、[サーバアドレス (Server Address) ]、[サーバのネット マスク (Server Net Mask) ]、および [サーバのゲートウェイ (Server Gateway) ]があります。
- iPXE-BIOS および iPXE-UEFI ネットワーク ブート ファームウェアのサポート。
- OS 構成ファイルの詳細を表示、編集、複製、およびスワップするためのサポート。

『Cisco UCS Director Bare Metal Agent Installation and Configuration Guide』に記載されています。

#### エンドユーザ ポータルの強化

このリリースでは、メニュー バーがランディング ページの上部から左側に移動しました。

『Cisco UCS Director End User Portal Guide』に記載されています。

#### カスタム タスクの強化

このリリースでは、次の機能が導入されています。

- Cloupiascript コードを検証し、ソリューションとともにエラー メッセージを表示するカスタム タスク スクリプト用の Java エディタで。

『Cisco UCS Director Custom Task Getting Started Guide』に記載されています。

- カスタムタスク スクリプトアナライザ：カスタムタスク内の Cloupiascript のクラスとメソッドを分析し、カスタム タスク ステータス ([実行済み (Executed) ]、[実行しない (Not executed) ]など)、使用されたメソッドリスト、互換性のないメソッドリストなどの分析レポートを提供します。

『Cisco UCS Director Upgrade Guide』に記載されています。

#### オープン オートメーションの強化

このリリースでは、次のサポートが導入されています。

- REST API のサポート：オープン オートメーションの計算フレームワークでは、アダプタおよびリスナーベースの API に対し REST API がサポートされています。

『Cisco UCS Director Open Automation Cookbook』に記載されています。

- コントローラを使用した入力検証：コントローラ クラスを使用して、REST API への入力を検証できます。

『Cisco UCS Director Open Automation Cookbook』に記載されています。

- アイコンのサポート：オープン オートメーション モジュールを配置するときの UI のアクションアイコンが含まれています。

『Cisco UCS Director Open Automation Cookbook』に記載されています。

- 再起動せずに新しいモジュールを有効にする：Cisco UCS Director を再起動せずに、新しく導入されたモジュールをアクティブにします。

『Cisco UCS Director Open Automation Cookbook』に記載されています。

- トラブルシューティング ソリューション：Cisco UCS Director でオープン オートメーション モジュールの REST API サポートを公開しているときに検出される可能性がある問題の解決策を提供します。

『Cisco UCS Director Open Automation Troubleshooting Guide』に記載されています。

## SCVMM と VMware の仮想化の強化

このリリースでは、次の機能が導入されています。

- VMware vCenter 6.5 のサポート
- SCVMM (Hyper-V) 2016 および Windows 2016 Guest OS のサポート
- VMware コンテンツ ライブラリのサポート：このリリースでは、VMware コンテンツ ライブラリ テンプレートのレポートの検索と表示のサポートが導入されています。コンテンツ ライブラリ テンプレートを使用して VM をプロビジョニングすることもできます。  
『Cisco UCS Director VMware vSphere Management Guide』に記載されています。
- VMRC HTML5 コンソール：このリリースでは、Web ブラウザおよびプラグインに依存しない VMRC HTML5 コンソールを起動する機能が導入されています。



(注) HTML5 VMRC SDK は、VMware vCenter バージョン 6.0 以降でサポートされません。

仮想マシンで VNC が有効になっている場合、VMRC HTML5 コンソールは起動しません。この問題の解決方法については、『Cisco UCS Director Troubleshooting Guide』を参照してください。

『Cisco UCS Director VMware vSphere Management Guide』に記載されています。

- VIX タスクの強化：VIX スクリプトの実行タスクでは、VIX API ではなくゲスト操作 API を使用するオプションがサポートされています。

『Cisco UCS Director VM Guest Customization Guide』に記載されています。

- ゲスト操作タスク：このリリースでは、既存の VIX 機能をサポートするゲスト操作タスクが導入され、ゲスト上でファイルのアップロードと実行が可能になりました。

『Cisco UCS Director VM Guest Customization Guide』に記載されています。

- VNC コンソール管理の強化：このリリースでは、[VM クライアントの起動 (Launch VM Client)] アクションから独立して VNC コンソールを起動するための [VNC コンソールの起動 (Launch VNC Console)] アクションが導入されています。VNC コンソールの設定を自動的に解除するタスクを有効にすることもできます。

『Cisco UCS Director Administration Guide』に記載されています。

- VM 名とホスト名の一意性チェック：このリリースでは、VM 名とホスト名の一意性検証チェックを無効にする機能が導入されています。

『Cisco UCS Director Administration Guide』に記載されています。

- CD または DVD ドライブから ISO イメージをマウント解除する：このリリースでは、VM 上の CD または DVD ドライブに既に接続されている ISO イメージをマウント解除する機能が導入されています。

『Cisco UCS Director Administration Guide』に記載されています。

- VM プロビジョニング時にソケットごとにコアを構成する：このリリースでは、サービス要求の作成、VM の展開、VM のクローン作成、またはオーケストレーション ワークフローを使用した VM のプロビジョニングに使用する、コンピューティングポリシーでソケットあたりのコアを定義する機能が導入されています。

『Cisco UCS Director Administration Guide』および『Cisco UCS Director VMware vSphere Management Guide』に記載されています。

- VMkernel NIC の強化：このリリースでは、VMkernel NIC で VMware vSphere がサポートする VMware vMotion およびトラフィック オプションのサポートが導入されています。

『Cisco UCS Director VMware vSphere Management Guide』に記載されています。

- VM 展開の強化：このリリースでは、イメージレポートにリストされているテンプレートから新しい VM を展開する機能が導入されています。

『Cisco UCS Director VMware vSphere Management Guide』に記載されています。

- クレデンシャルポリシーの強化：このリリースでは、VMware クラウドを追加する際に使用するクレデンシャルポリシーを指定する機能が導入されています。

『Cisco UCS Director VMware vSphere Management Guide』に記載されています。

- VM 移行の強化：このリリースでは、データセンター間で VM を移行し、VMware vCenter Server 内の VM ポート グループを変更する機能が導入されています。

『Cisco UCS Director VMware vSphere Management Guide』に記載されています。

#### オーケストレーションの強化

このリリースでは、次の機能が導入されています。

- ワークフロー スケジュールの管理：同じワークフローを複数回実行するようにスケジュールできます。以前は、ワークフロー 1 つにつき 1 つのスケジュールしか存在できませんでした。
- リソースのロック：名前付きセマフォを取得および解放する特殊なタスクを使用して、ワークフロー内のリソースをロックおよびロック解除できます。
- ワークフロー入力によるファイルのアップロード：特殊な入力タイプ `fileUpload` を使用するワークフロー タスクを通じて、ファイルを Cisco UCS Director にアップロードできます。
- ワークフロー デザイナの強化：HTML5 ワークフロー デザイナには、次のようなナビゲーションを簡素化するいくつかの新機能が用意されています。
  - ワークフローのビューを縮小したり拡大したりするためのズーム コントロール。
  - ワンクリックでワークフローを画面に合わせる [ウィンドウに合わせる (Fit to Window) ] アクション
  - 作業領域内のビュー ウィンドウをパンするナビゲータ

ワークフロー デザイナには、条件付きタスク、カスタム タスク、および合計タスクの数も表示されるようになりました。

- ヘッダーベースのワークフロー検索：Cisco UCS Director のどこからでもワークフロー デザイナでワークフローを検索して起動できます。

『Cisco UCS Director Orchestration Guide』に記載されています。

## REST API の強化

このリリースでは、次の機能が導入されています。

- HTTP/HTTPS POST を使用した JSON API の要求：HTTP POST メソッドを使用して JSON API リクエストを渡す方法に関する手順が提供されました。
- サービス要求を管理するための REST API のサポート：次の API が追加されました：  
`userAPIGetServiceRequestLogEntries`  
『Cisco UCS Director REST API Cookbook』に記載されています。
- アクセス XML REST API：XML REST API を呼び出して基本的な CRUD 操作を実行するための API のリストを提供します。  
『Cisco UCS Director Cloupiascript Cookbook』に記載されています。

## アプリケーション コンテナの管理の強化

このリリースでは、次の機能が導入されています。

- VM 内でリンク済みクローンを使用：仮想ディスク ストレージを共有する 2 つ以上の関連する VM であるリンクされた VM を展開するためのサポートを提供します。

- コンテンツライブラリテンプレートを使用した VM のプロビジョニング：VM プロビジョニング用のコンテンツライブラリ VM テンプレートから VM テンプレートを選択するためのサポートを提供します。

『*Cisco UCS Director Application Container Guide*』に記載されています。

### カスタムタスクの操作の強化

このリリースでは、次の機能が導入されています。

- Cloupiascript からの API 操作の使用：Cloupiascript から API 操作を使用するためのガイドラインを提供します。
- カスタムタスクスクリプト用の Java エディタ：Cloupiascript コードを検証し、ソリューションとともにエラーメッセージを表示します。
- 前のタスクの出力へのアクセス：前のタスクの出力をワークフローの他のタスクで使用する 2 つの方法を提供します。
- カスタムタスクとの GitHub の統合：カスタムタスクコードを GitHub リポジトリのファイルから、作成したカスタムタスクにダウンロードできます。Cisco UCS Director は、GitHub ([github.com](https://github.com) または企業の GitHub インスタンス) のみをサポートしています。BitBucket、GitLab、Perforce、Codebase などの他の Git ホスティングサービスはサポートしていません。

『*Cisco UCS Director Custom Task Getting Started Guide*』に記載されています。

### Cisco UCS Director シェルインターフェースの強化

このリリースでは、次の機能が導入されています。

- データベースのバックアップと復元のための SFTP および SCP プロトコルのサポート。
- HTTPS アクセスを有効または無効にするオプションを導入しました。
- Cisco UCS Director にパッチを適用しながら、SFTP や SCP などのセキュアなオプションをサポートします。
- マルチノードセットアップとスタンドアロンセットアップで MySQL ユーザパスワードをリセットするサポート。
- ソフトウェアイメージのデジタル署名のサポート。
- アクティブな GUI セッションを終了することにより、ユーザ 1 人あたりの同時セッション数を制限するオプションを導入しました。

『*Cisco UCS Director Shell Guide*』に記載されています。

### 変更されたワークフロー名

このリリースでは、NFS データストアとしての IBM LUN の作成と追加が変更されて、V7000 上の ESXi に新しい NFS データストアを追加するようになりました。

## リリース 6.5 で更新されたサポート

この項では、リリース 6.5 で更新されたサポートの概要を示します。詳細については、『[Cisco UCS Director Compatibility Matrix, Release 6.5](#)』を参照してください。

### シスコ サーバのサポート

このリリースでは、次の変更がシスコ サーバのサポートに追加されました。

- Cisco UCS Manager : 3.1(3\*) および 3.2(1)
- Cisco UCS Central : 2.0(1\*)
- Cisco UCS C シリーズラック サーバ (ラック アカウント経由のスタンドアロン) : Cisco IMC Supervisor リリース 2.2
- Cisco UCS E シリーズ サーバ (ラック アカウント経由のスタンドアロン) : Cisco IMC Supervisor リリース 2.2

### シスコ アプリケーション セントリック インフラストラクチャのサポート

このリリースでは、次の変更がシスコ アプリケーション セントリック インフラストラクチャのサポートに追加されました。

- シスコ アプリケーション セントリック インフラストラクチャ : リリース 2.2(2f\*)

### NetApp ストレージのサポート

このリリースでは、次の変更が NetApp ストレージのサポートに追加されました。

- NetApp AFF (ALL Flash FAS-ONTAP) : 9.0 および 9.1

### EMC ストレージのサポート

このリリースでは、次の変更が EMC ストレージのサポートに追加されました。

- EMC Unity : UnityOS : 4.1.1.91.38882

### ハイパーコンバージド インフラストラクチャのサポート

このリリースでは、次のサポートが Cisco HyperFlex システム 用に追加されました。

- Cisco HX シリーズ サーバ : HX220C-M4、HX240C-M4
- Cisco HX Data Platform : リリース 1.8(1c) およびリリース 2.5(1a)

## 廃止のお知らせ

### Cisco UCS Invicta の廃止のお知らせ

次の Cisco UCS Invicta Series のストレージアカウントが廃止されました。

- Cisco UCS Invicta アプライアンス
- Cisco UCS Invicta スケーリング システム

新しい Cisco UCS Invicta のアカウントを作成できなくなりました。『*Cisco UCS Director Invicta Series Management Guide*』も今後は更新されません。



- (注) サポート終了のマイルストーンと日付については、『[End-of-Sale and End-of-Life Announcement for the Cisco UCS Invicta Series](#)』を参照してください。

### 未解決のバグおよび解決されたバグ

このリリースで未解決のバグおよび解決されたバグには、[Cisco Bug Search Tool](#) を使用してアクセスできます。この Web ベース ツールから、この製品やその他のシスコ ハードウェアおよびソフトウェア製品でのバグと脆弱性に関する情報を保守する Cisco バグ追跡システムにアクセスできます。



- (注) Cisco Bug Search Tool にログインしてこのツールを使用するには、Cisco.com アカウントが必要です。アカウントがない場合は、[アカウントを登録](#)できます。

Cisco Bug Search Tool の詳細については、[Bug Search Tool Help & FAQ](#) を参照してください。

### リリース 6.5 で未解決のバグ

リリース 6.5 で未解決のすべてのバグに関する詳細情報は、[リリース 6.5 の未解決バグを検索する](#) ことで確認できます。この検索では、次のパラメータを使用します。

フィールド	パラメータ
[製品 (Product) ] ドロップダウンリスト	[シリーズ/モデル (Series/Model) ] を選択し、Cisco UCS Director を入力します。
[リリース (Releases) ] ドロップダウンリスト	[これらのリリースにおける影響または修正 (Affecting or Fixed in these Releases) ] を選択し、6.5(0.0) を入力します。

フィールド	パラメータ
フィルタ	[ステータス (Status) ] ドロップダウンリストから [開く (Open) ] を選択します。

## リリース 6.5 で解決されたバグ

リリース 6.5 で解決されたすべてのバグに関する詳細情報は、[リリース 6.5 の解決されたバグの検索クエリ](#)によって確認できます。この検索では、次のパラメータを使用します。

フィールド	パラメータ
[製品 (Product) ] ドロップダウンリスト	[シリーズ/モデル (Series/Model) ] を選択し、Cisco UCS Director を入力します。
[リリース (Releases) ] ドロップダウンリスト	[これらのリリースにおける影響または修正 (Affecting or Fixed in these Releases) ] を選択し、6.5(0.0) を入力します。
[フィルタ (Filter) ]	[ステータス (Status) ] ドロップダウンリストから [修正 (Fixed) ] を選択します。

## マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手、Cisco Bug Search Tool (BST) の使用、サービス リクエストの送信、追加情報の収集の詳細については、『[What's New in Cisco Product Documentation](#)』を参照してください。

新しく作成された、または改訂されたシスコのテクニカル コンテンツをお手元に直接送信するには、『[What's New in Cisco Product Documentation](#)』 RSS フィードをご購読ください。RSS フィードは無料のサービスです。



---

© 2017 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.